

小論文作成上の留意点

小論文の作成時には、日銀グランプリWebページ内の「4. 応募形式」を遵守してください。また、同ページ内の「10. 注意事項」や、日銀グランプリ応募サイト内の「同意事項の確認」も併せてご確認ください。そのうえで、小論文作成上の留意点を以下に纏めましたので、参考にしてください。

- (1) 提言の前提となる現状把握にあたっては、事実関係の確認を行ってください。
 - 提言を行おうとするテーマについて、多種多様な情報源を活用しながら事実確認を行ってください。この作業を怠りますと、見当違いの提言や陳腐化した提言になってしまう可能性があります。
 - 併せて、そのテーマに関してすでに何らかの提言がなされていないか確認してください。
 - 日本銀行の政策や業務をテーマとする場合には、日本銀行ホームページに掲載されている最新情報を十分に活用してください。
- (2) 独自の調査や分析を行う余地がないか検討してください。
 - 独自の調査は、現実的・説得的な提言につながります。
- (3) 提言に十分な分量を割いてください。
 - 限られた紙幅を有効に活かすため、問題意識・背景の記述は簡潔にとどめ、提言の説明に注力してください。
 - 論旨と論理展開が追いやすい文章作成を心掛けてください。
 - より良い論文を作成するため、提言について、グループ以外の方（大学の友人、ゼミの指導員や先輩・後輩、調査先の企業の方等）に説明し、論理の一貫性が保たれているか、論理展開が結論に飛躍していないか、全体として説得的かどうか等について意見を聞くのも一つの方法です。
- (4) 提言内容を具体的に示してください。
 - 抽象的な内容では、提言の実効性や独創性について評価することが難しくなります。
 - 過去の提言例を知りたい場合は、日本銀行ホームページに掲載されている入賞論文をご確認ください。
- (5) 提言の利点や効果だけでなく、コスト・副作用・課題も具体的に検討してください。
 - 誰が、どのように、どれくらいのコスト（金銭・時間）をかけるか、現在の法制度の枠組みで可能か（あるいは変える必要があるのか）等、実現に至る過程を丁寧に記述することは、提言の説得性を高めることとなります。
 - 将来的なコストや副作用の軽減などについても極力論文に盛り込み、実現性に配慮した内容となるように工夫してください。
- (6) 他者の著作を引用・転載するときは、その旨を明示したうえで出所を必ず明記してください。
 - 他者の意見と自分の意見を明確に区別していない小論文や、出所の明示が不十分な小論文は、提言内容がいかに素晴らしくとも、盗用や剽窃ではないかとの疑義を抱かれます。文章やアイデアを直接引用・転載する場合は勿論、他者の著作物を改変して引用する場合にも、必ずその旨を明記してください。